

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2024年（令和6年）7月から9月

- 1 調査期間 2024年7月～9月（第2四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

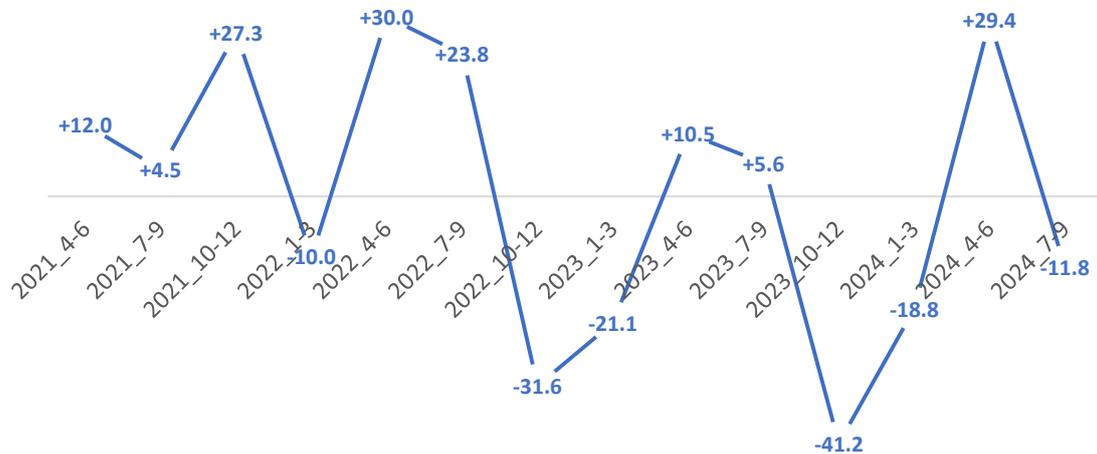
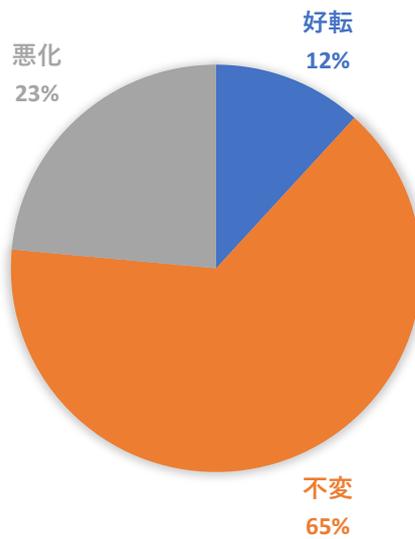
製造業	8社
建設業	2社
飲食業	2社
小売業	2社
観光業	3社
計	17社
- 4 調査項目
 - ① 3か月前と比べて
 - ② 前年同期と比べて
 - ③ 3か月後の見通し※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

Volume 1 4

主管 ふじみまち産業振興センター

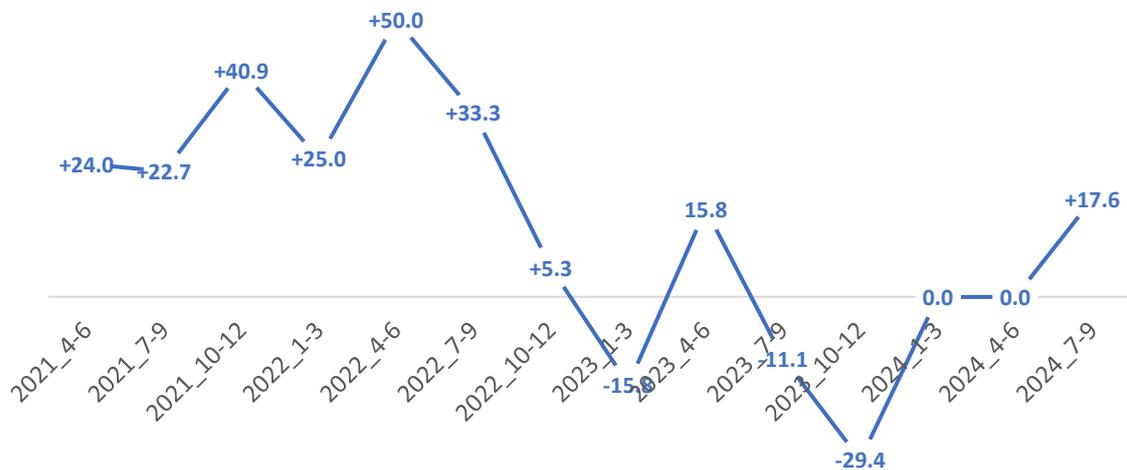
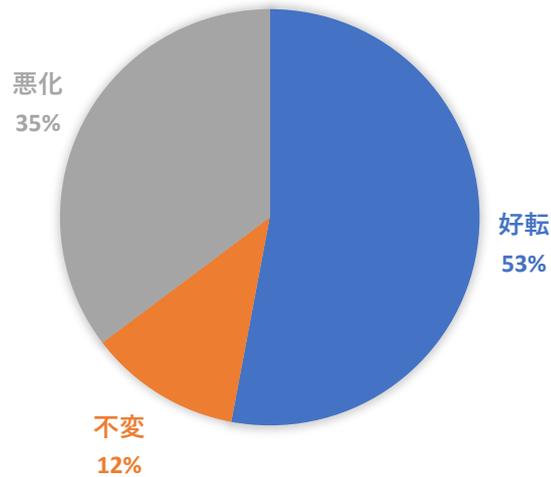
<調査項目① 3か月前と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	2	11	4	17		➔
	構成比	11.8%	64.7%	23.5%		-11.8	
製造業	実数	0	5	3	8		➔
	構成比	0.0%	62.5%	37.5%		-37.5	
建設業	実数	0	1	1	2		➔
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
小売業	実数	0	2	0	2		➔
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	1	1	0	2		➔
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	1	2	0	3		➔
	構成比	33.3%	66.7%	0.0%		+33.3	



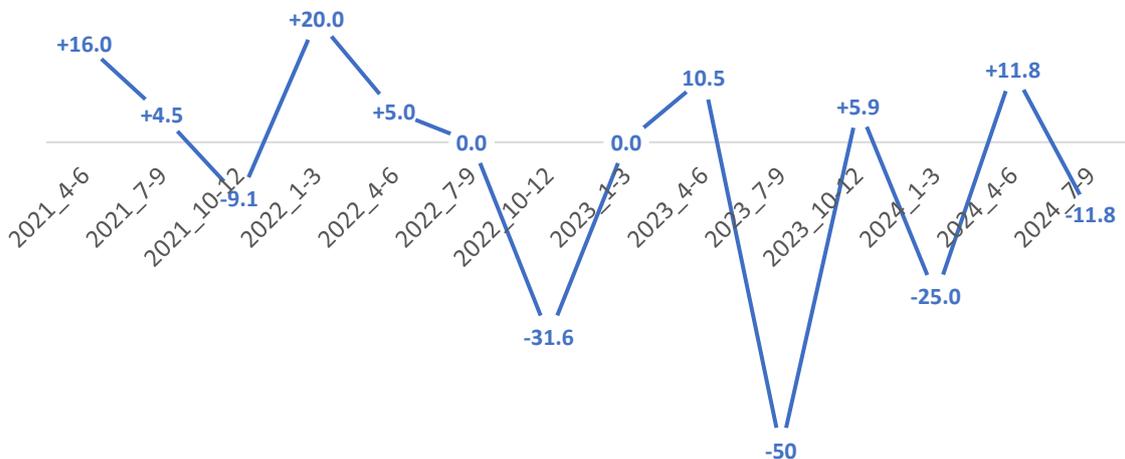
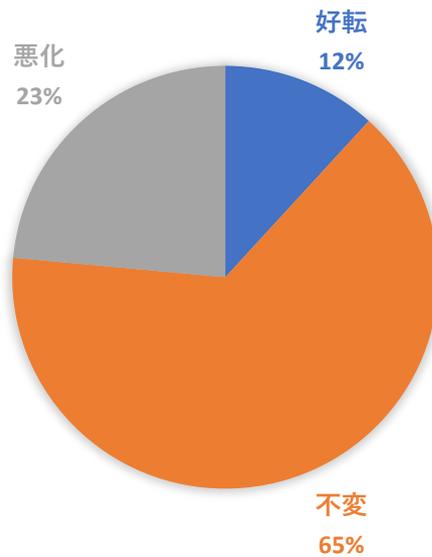
<調査項目② 前年同期と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	9	2	6	17		➔
	構成比	52.9%	11.8%	35.3%		+17.6	
製造業	実数	2	1	5	8		➔
	構成比	25.0%	12.5%	62.5%		-37.5	
建設業	実数	2	0	0	2		➔
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
小売業	実数	2	0	0	2		➔
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	0	1	1	2		↘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
観光業	実数	3	0	0	3		➔
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	



<調査項目③ 3か月後の見通し>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	2	11	4	17		➔
	構成比	11.8%	64.7%	23.5%		-11.8	
製造業	実数	1	5	2	8		➔
	構成比	12.5%	62.5%	25.0%		-12.5	
建設業	実数	0	2	0	2		➔
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	1	1	0	2		➔
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
飲食業	実数	0	1	1	2		↘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
観光業	実数	0	2	1	3		➔
	構成比	0.0%	66.7%	33.3%		-33.3	



<経営者の眼(見方)>

製造業	今後については不透明感があるものの、現状は好調に推移しています。アメリカ大統領選が終われば、ある程度先行きが見えてくるのではないのでしょうか？
製造業	半導体製造装置の需要は伸びる方向で来年度は 10%UP 予測です。
製造業	在庫調整が長引いている感あり、新製品立上げに期待しているが、来年度下期まで我慢。
製造業	夏からまた一段と悪化した。顧客の話によると年度内この状況が続くとのこと。
製造業	先が読めず困っている。
製造業	不景気の底が見えない状況
小売業	価格高騰のため昨年度よりは売り上げは上がっていますが、人件費、仕入れ高騰により粗利率は低下しているため年後半は厳しくなる予想
小売業	製品の値上げ等が相次いでいるので、見込みのあるものはなるべく早めに仕入れるように心がけている。今後も値上げの傾向は続くであろうから、まとまった仕入れが出来る体力が必要になってくると思われる。
建設業	春から夏場にかけて盛り返してきた需要は特に力強さを感じないまま停滞ぎみ。本来であれば引き合いが継続しているはずの時期にもかかわらずこのような状態は家計を圧迫する様々なモノの物価が上がってきているためと推測している。相変わらず仕入れ値も高止まりしており先行きは楽観視できない状況が当面続くと思われる
観光業	一時期よりもウィンタースポーツに興味がある年齢層が若返ったように感じる。物価上昇に伴い料金を上げざるを得ないが、その値上げにあまり抵抗を示さないのも上記の年齢層に多い。 客の単価が上がれば客数が減少しても売上が伸びる可能性はあるので、多少期待している。 今後の更なる物価上昇、再来年から導入予定の宿泊税などへの対応は頭痛の種である。
観光業	秋に入っても週末になると行楽客は多い。ただ、通過してしまうだけの人が多くて残念。
飲食業	夏の観光シーズン等で観光客のご来店が多かった。昨年と同様 9 月も残暑の影響か、観光客が多く感じた。この先振興券や周遊券の終了もあり、夏の比べて秋冬は来店数は減少していくと思う。以前スキー客に周遊券を配布していた時があったが、今年も寒い季節に周遊券のような何か券があると良いと思う。
飲食業	昨年と比べ来店者数は横這いですが、客単価が落ちています。物価高の影響でしょうか？